



『新宿力』で創造する  
やすらぎとにぎわいのまち新宿

新宿区

令和3年第1回区議会定例会  
新宿区長定例記者会見資料  
令和3年2月9日(火)

事業名	①新宿区版GIGAスクール構想の実現による授業改革 ②特別支援教育の推進		予算(案)の概要	71-77	ページ
予算額	令和3年度予算額 (前年度予算額)	① 919,620 千円 37,134 千円	② 217,051 千円 169,172 千円	(拡充)	
取材先	教育委員会事務局 教育指導課長 荒井 (電話 03-5273-3084) 教育委員会事務局 教育支援課長 内野 (電話 03-3232-1051)				

## 新宿区版GIGAスクール構想の 推進による授業改革

国のGIGAスクール構想を受け、新宿区の現状や課題に合わせた「新宿区版GIGAスクール構想」を推進し、子どもの生きる力を伸ばす授業改革を実現します。

### かわるポイント1 【1人1台LTEタブレット端末】

LTE通信に対応したタブレット端末を区立学校の児童・生徒に1人1台貸与し、個々の状況に応じて活用します。(自宅学習・宿題・端末の読み上げ機能の活用)

小学校・中学校

特別支援学校・学級

Microsoft製 **Surface Go 2**  
14,556台



Apple製 **iPad (第8世代)**  
346台



### かわるポイント2 【デジタルドリル・協働学習ツールの活用】

- デジタルドリルでの宿題の実施状況を把握し、授業で解き方を確認
- AIが提案する振り返り問題から、個人に応じた課題を実施
- 協働学習ツールにより、友達との意見交換・整理、発表のためのプレゼンテーションを作成



### かわるポイント3 【多様な場面でのICTの効果的活用】

- 不登校児童・生徒が家庭やつくし教室でeラーニングを実施
- 放課後学習で、一人ひとりの熟練度に応じた学習
- ネットリテラシーを含めた、家庭と連携した情報モラル教育を推進



## 特別支援教育の推進

障害のある児童・生徒の増加に伴い、一人ひとりの発達の状況に応じたきめ細やかな指導や支援をさらに推進していく必要があります。

児童・生徒の苦手なことや困難なことなどの特性を把握し、個別の教育的ニーズをふまえた適切な支援を行う体制を整備し、すべての子どもが豊かに学べる教育環境の充実を図ります。

### 【特別支援教育推進員を増員】

発達障害等のある児童・生徒数の増に対応するため、特別支援教育推進員を増員し、子どもたちへの支援をより一層充実します。



- 特別支援教育推進員を13人増員
- 対象児童・生徒が在籍する学級において、教員の指導の補助や、その他の必要な支援を実施。
- 学校生活支援シート(個別の教育支援計画)や連携型個別指導計画等を活用した丁寧な対応

#### 特別支援教育推進員の人数

	令和2年度	令和3年度
小学校	40人	50人
中学校	5人	8人

#### 【特別支援教育推進員】

発達障害等のある児童・生徒への学級内指導体制を充実させるため、学級内において、教員の指導の補助や、その他の必要な支援を行う。

### 【アセスメントツールの導入】

「読むこと」や「書くこと」などに困難さがある学習障害の児童・生徒については、「まなびの教室」において、一人ひとりの特性に応じた支援を実施しています。今後、アセスメントツールを活用することで、「読むこと」や「書くこと」のつまずきをより正確に把握し、読み書きの困難な状態を踏まえた指導・支援の一層の充実を図ります。



#### <アセスメントツールを導入>

##### 【多層指導モデルMIM(ミム)】

小学校1・2年生児童を対象。読みの速度や正確さを把握し、流暢性を育む。

##### 【URAWSS II (ウラウスII)】

小学校3～6年生の児童を対象。読み書きの速度や正確性を把握する。

##### 【STRAW-R(ストロウアール)】

中学生が対象。読みの速度や正確さ、書きの正確さを把握する。

※アセスメントツールとは、「読むこと」や「書くこと」に困難さがあり、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの特性に応じた支援を行うために、苦手な点やつまずきを把握するために実施する、標準化された検査に用いるツールです。アセスメントは、巡回指導教員(まなびの教室)が実施します。